

# 羽衣村広報

発行 羽衣村広報課  
毎月1回発行

## 静岡市計画の羽衣の松 巨大構築物・ ボードウォーク計画に思う

良いことみたいなきもするけれど。。。と思う人へ

静岡市の計画している羽衣の松周辺のボードウォーク（オーストラリア産ユーカー）事業をご存じでしょうか。2億近い巨額を投じる事業です。本来5月の連休明け着工予定でした。「根を踏まず車椅子で行き来ができる。」砂は歩きにくいしそれはいいことだと思ってもいるかもしれせん。しかもユーカーは重くて固い樹で劣化もせずシロアリも

つきにくいという触れ込み。「神の道もそうしてあるし、何もないところだんで少しはかつこがついていいじゃん。」と思う人もいるでしょう。けれど、これは松原の存亡にかかわり聖域である松原を冒瀆する愚の行為です。三保を台無しにするだけで何の益もありません。それをこれからお話ししたいと思います。

松原を守り後世に伝えるのは誰？

富士山世界文化遺産の構

成資産として認められ、国指定名勝として文化財保護法に守られているように見える三保松原ですが、この自然景観の本質がわからず、現場にも疎いたため、時に思いがけないことがおこります。私たち一般市民は、三保松原に愛情があっても意見は反映されず何も知らされないままに事が進んでいきます。しかし、三保松原のような自然環境を守ることができるのは法律でも行政でもなく、三保の富士を愛し、松風を愛し、砂さへも愛おしみ、ここに輝く光に美を感じる人達です。景観は彼らの心のそのものだからです。でも実際の担い手は地域の私たちです。人任せにせず三保松原が美しいままで後世に伝えられるよう関心を持っていただきたいと思います。

### 三保松原は文化財

三保松原はたくさんの人

の訪れる観光地です。「訪れて良かった。」そう思っていたために、来訪者の立場に立ち利便性を高めることも大事です。しかし何より観光の本来の役割は、その土地の真価（光）を来訪者に伝えることです。三保松原は名勝という日本の文化財であり、富士山世界文化遺産の構成資産になったことにより世界の至宝です。その本質は日本人に長く愛された自然景観の美であり、富士山世界文化遺産の観点から見れば美の源泉です。文化庁のホームページは文化財をこう説明しています。

文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産です。このため国は、文化財保護法に基づき重要なものを国宝、重要文化財、史跡、名勝、天然記念物等として指定、選定、登録し、現状変更や輸出などについて一定の制限を課す一方、保存修

理や防災施設の設置、史跡等の公有化等に対し補助を行うことにより、文化財の保存を図っています。また、文化財の公開施設の整備に対し補助を行ったり、展覧会などによる文化財の鑑賞機会の拡大を図ったりするなど文化財の活用のための措置も講じています。さらに、我が国を代表する文化遺産の中から顕著な普遍的価値を有するものをユネスコに推薦し、世界文化遺産への登録を推進しています。

三保松原の名勝指定は一番古い大正十一年です。日本国にとって芸術上また観賞上価値の高いものと認められ文化財保護法によって守られています。三保松原は富士山世界文化遺産の構成資産の一つでしかありませんが、数ある富士山の眺望地の中でも歴史があり顕著な普遍的価値を有するため構成資産として認められたのです。

では三保松原の景観とは具体的に何でしょうか。「松原越しに見える富士山の眺望」です。日本らしさを



感じる文化的景観と聞いていいでしょう。自然の美です。当然富士山は美しく顕著な普遍的価値を有してい

る。同時に松原にも同じ価値があることになりませぬ。松原の実体は松と大地です。大地は洲浜(今は砂嘴)と呼ばれてきました。松の洲浜は蓬萊の象徴です。富士山と松を一体のものと考えようになるのは日本人の蓬萊観が海にあるからです。

### 砂こそ我命

ここで私たちがどうしても見落としがちなのは、三保松原を育てているこの大地(砂地)のことです。砂というと多くの人が瘦地、不毛、歩きにくく益のないものと思うでしょう。しかし、松は砂があるからこそ存在できます。砂こそ三保の松を守り、維持してきた基盤です。

三保の大地は山、川、海の共同で作られ上げられました。砂嘴(洲浜)は三保の芯に砂がよりついて出来上がっています。砂の特性は水はけの良さです。乾燥し養分が

ありません。特に羽衣松周辺の土手は不思議な場所です。傾斜地であるのに雨が降っても砂が水を吸うために砂は失われませんでした。風による飛砂があるため常に砂が供給されています。砂は不毛のようですが、松の生命である菌根菌は栄養があつては育ちませぬ。不毛の大地は松原の生命の根源なのです。松と砂は不可分の関係にあります。

### 老木の多い羽衣の松周辺の土壌は水を吸わず瀕死状態

しかし当たり前にあると思っているこの大地に異変が起きています。松原全体が長年の整備不足で松葉や草がたまり土壌は固くなり水はけが悪くなっています。ただこれは自然なものなので大変な作業ですが地道に整備して取り除けば、次第に状態は好転します。しかし羽衣松周辺の土手の状況

は深刻です。土壌が水を吸わないことは同じですが、土壌の固まりの層は強固で簡単に取り除くことはできません。どうやらこの固結層は自然のものでなく何らかの異物が混じり、あたかもアスファルトを流したように地層の表面に広がっているのです。当然水を吸わず砂は流れ固定しませぬ。上の人工物から流れる出る大量の雨水は地面に吸収されず、砂を流しながら下り窪地を形成しあたかも大谷崩れのようになってしまうました。崩れて掘れた場所には長年土砂を埋めていました。この悪循環がついに松原の土手のバランスを崩し最悪の状況を生んでしまったようです。雨の日に三保松原を訪れてみて下さい。土手全体が白糸の滝のような奇妙な光景を見ることがができます。

**健全な砂の大地が健全な松を維持する**

三保の松原全体が整備不足のために松が弱っているのは報道の通りですが、特に羽衣周辺は人の往来も多く、より深いダメージを受けています。瀕死の状態です。まして老木です。頑固なボードまで作って中に入り鑑賞するどころか、すでに保護する時期にきています。ボード建設は松原の砂の大地に異物を増やすことです。土壌環境が悪化することがあっても良くなることはありません。加えて樹齢が同じようなものが多いために一斉に松が失われる可能性もあります。そのあとのことも想定して策を講じなければなりません。にもかくにも、この区域の土壌を水はけのよい、元の状態に戻すことが何より先決です。それにはまず、歴史を伝承するもの以外は、水を吸わない土手の上の人工物を最小限にすること。同時に地層表面にできている固まりの層を取り除くことです。

万が一、ここに市の計画している大規模な建造物を造れば、さらに負荷が加わり三保の古風を感じる三保松原の神髄にさらに壊滅的ダメージを与え取返しがつかないことになるでしょう。

また、ボードを支える基礎部分の工事では、大量の砂を掘り起こしますが、これによって松の生育になくてはならない菌根菌との共生環境が破壊されてしまいます。

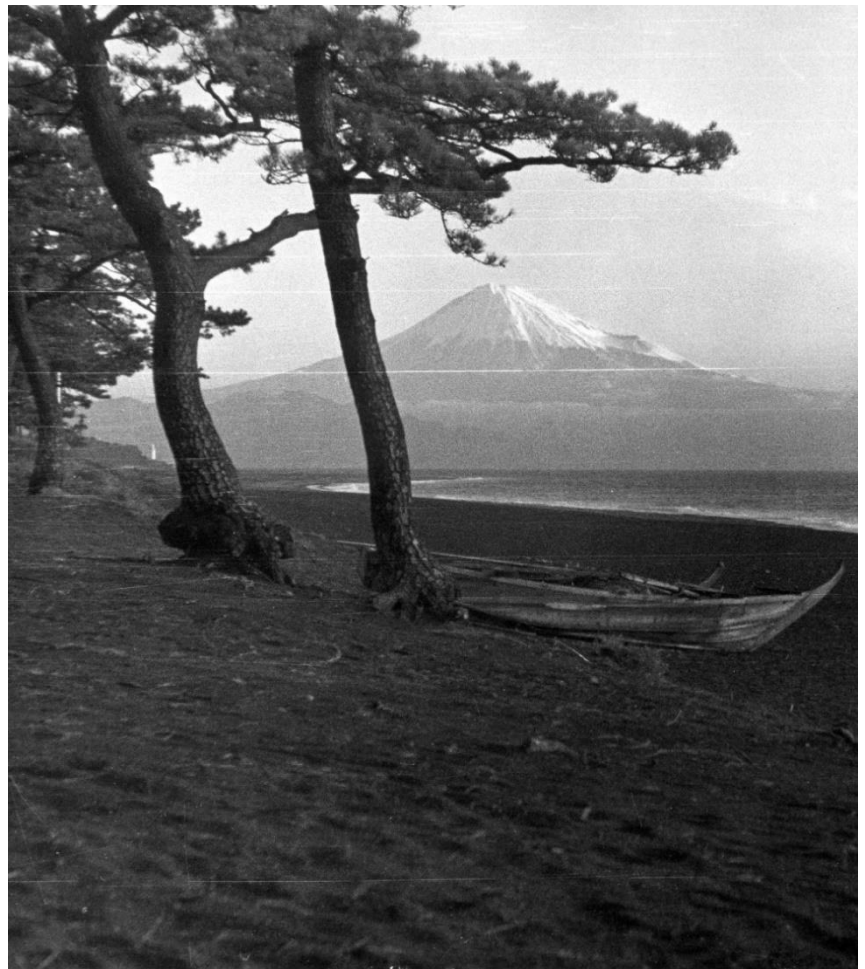
繰り返しますが今しなければならぬことは人工物をつくることではなく人工物や固結層を取り除き、もとの姿に回復させることです。そのためには保護地区を設けることも避けられません。このような現状はここに住む私たちでなければわからず市の施策が的外れになる理由も現場を知らないことにあります。

**三保の美は自然美 芸術の源泉**

翻って三保の松原の美とは何でしょうか。遠景の富士と近景の松と砂浜です。具体的には富士、松、砂、浜、海、天この組合せに美と顕著な普遍的価値があります。根源は自然にあります。たとえ木道であろうと、人工建造物をこの中に造ることは美を阻害します。また砂

は歩みにくいものです。それがあべき姿です。なかつたものを作るべきではありません。古典はもとより、近代芸術である和田英作の油絵や岡田紅陽の写真を鑑賞してみてください。自然の中にいたずらに人工物を置けば美も普遍性も失われます。もうすでに三保松原

内には人工物が多すぎます。必要最小限なものだけを残し害を及ぼすものは取り除く時期が来ています。私たちはこのたぐいまれな自然景観をこれ以上傷つけてはなりません。ユニバーサルデザインは大事ですが、景観を阻害しない場所に最短なものとし、安心して通る



ように考えるべきであり、8%の勾配のスロープなど車椅子の利用者は怖くて利用できないでしょう。昔ながらに自然が生きる三保松原の美しさをお見せするところこそが来訪者への最大の礼節です。三保松原に憧れを持つ人であればそれを望むはずです。

**松も伝統も後世に伝えることができるのは私たち**

さて最後に信仰の話を書きます。かつて三保の地はすべて松原でその中心は御穂神社でした。神の道は御穂神社から海に向かい500メートル続いています。そこで終わりではなく実際には松原を通り羽車神社まで続いています。松原の太い松は参道を意味しています。これは御穂神社の信仰の形態で三保の皆さんなら二月の御穂神社の筒かゆの神事をご存じかと思いますが、お祭りの前日深夜神官と氏



子は神様を羽衣の松の「羽車神社」にお迎えにいき羽衣の松下の浜辺で神事が執り行われます。つまり神様は「羽車神社」に來臨され、参道を通って御穂神社にお着きになるのです。神の道と呼ばれる所以です。今回のボードの計画はこの参道を分断することになります。幕末、禄を失った幕臣によ

って三保の松原は壊滅的に伐られたといえます。しかし村人が命を懸けて守り抜いたのが参道の松です。これらの松がなくなったら神迎えができなくなる。神様が來臨できなくなる。村人は幕臣に抗って松を守りました。なぜ、今の参道の松や羽衣の松周辺の松だけ大きくて古いものが多いのか、

それでお分かりいただけると思います。時代錯誤と考える人が多いでしょうが、そう信じて私たちはこの地で松と暮らしてきたのです。今回の計画も神の來臨を妨げるもので、あつてはならないことです。文化財保護法や目が回るほどの規制で守られているはずの三保松原ですが、守らなくても何の指導もありません。残念ながら法や条例だけで三保松原を守ることにはできないのです。地域の人間と、三保松原の真価を愛する人間が守ろうとしなければ、守る人はだれもないことを肝に銘じなければなりません。人任せでは守れないのです。地域の方々の中には松原をさもないものと感じる人も多いかもしれません。しかし、私たちにとって当たり前に思っているこの松も砂も富士の眺望も稀有なものです。日本の宝なのです。どうか誇りに思ってください。そし

て三保松原の美が失われないうちに自然環境が損なわれないうちに私たち自身が研鑽を重ねるとともに、行政の仕事が誤ることのないように見守ろうではありませんか。

最後までお読みくださりありがとうございます。ございました。

静岡市清水区三保1282-1  
NPO法人三保の松原・羽衣村  
文責 遠藤まゆみ

**それいけコクモ隊からのお知らせ**

**整備ボランティアのお願い**

羽衣村では毎週水曜日と土曜日の9時から11時まで(年末年始と盆は休み)、羽衣松から鎌ヶ崎にかけて草取りと松葉かきの整備をしています。企業の方々、ご家族、学生さんなどどなたでも参加できます。雨の日はお休みです。松原の環境整備に是非ご参加ください。